

シンポジウム 「縄文の装身具を考える」

今回のシンポジウムでは日本列島に於ける縄文時代装身具研究の現状及び課題を踏まえ、これからの研究方向と問題点を整理する機会と位置付け、その為に地域毎の装身具の種類・形態、副葬や組合せなどの諸特徴について、それぞれの地域で装身具研究に取り組む中堅・若手研究者の成果発表を中心としている。地域毎の資料集成に留まらない、佩用人物を含めた従来の研究視点とは違う新たな視座からの問いかけは、今後の縄文時代の装身具研究が取り組むべきテーマと方向性を提示する機会となるに違いない。



- 日時 2024年1月27日(土) 午前9:30～午後5時
- 会場 明治大学 グローバルフロント 2F (4021教室)
- 共催 明治大学黒曜石研究センター / 日本玉文化学会

- ・趣旨説明 栗島義明 (明治大学黒曜石研究センター) 9:30～9:40
- ・「殺傷痕を持つ縄文人骨」 渡辺新 (千葉縄文研究会)・谷畑美帆 (明治大学) 9:40～10:20
- ・「北海道の後・晩期の石製装身具」 柳瀬由佳 (北海道埋蔵文化財センター) 10:20～10:50
- ・「北東北における縄文前期～中期のヒスイ加工」 山地雄大 (青森県教育委員会) 11:00～11:30
- ・「東北地方南部の装身具」 山本有紀 (福島県教育委員会) 11:30～12:00
- ・「中部日本における土坑墓の副葬品と装身具」 坪田弘子 (玉川文化財研究所) 13:00～13:30
- ・「境A遺跡に於ける翡翠利用 ―大珠製作を中心に―」 川端典子 (朝日町まいぶんKAN) 13:30～14:00
- ・「北陸地域の装身具」 久田正弘 (石川県埋蔵文化財センター) 14:00～14:30
- ・「中部地方のヒスイ製装身具」 林亮太 (釈迦堂博物館) 野代和幸 (山梨考古博物館) 14:30～15:00
- 総合 司会: 森山 高 (春日部市教育委員会) ・五十嵐睦 (平塚市教育委員会) 15:20～16:45
- ・総括 藤田富士夫 (日本玉文化学会会長)

科学研究費 研究基盤(B)
「縄文時代のヒスイ・コハクを用いた装身具の総合的研究」
(研究課題20k0180・研究代表 栗島義明)